



エコファーマー推進実証展示圃の報告

「JA安芸こだわり米」生産を行っている生産者の圃場に看板を立て例年通り「JA安芸こだわり米」栽培基準に添って栽培していただきました。

エコファーマーは、化学肥料と農薬の使用を控え、土づくりを行った栽培方法で持続性の高い生産方式として広島県は導入を促進しています。

エコファーマーの内容は、

- ①有機質資材施用技術、粗大有機物の施用（秋に散布し耕起）500 kg/10a 以上
- ②化学肥料低減技術、有機質肥料（普通肥料）の施用、化学合成窒素分量 6.4kg/10a 以下
- ③化学農薬低減技術、温湯種子消毒技術等、化学合成農薬使用回数（成分カウント）16 回以下
今回 4 軒の栽培履歴を見ると、
- ② 機質資材施用技術は堆肥で 1 t 投入されていました。
- ②化学肥料低減技術、有機質肥料（普通肥料）の施用は化学合成窒素成分量は 4.6~5.9 kg/10a でした。
- ③化学農薬低減技術、化学合成農薬使用回数（成分カウント）は 8~11 回でした。

今年の稲作は 5 月下旬~6 月中旬の日照不足等による分けつが抑制されましたが、穂数は平年並みとなりました。6 月下旬~8 月上旬がおおむね好天で経過したが 9 月上旬台風 12 号の影響を受けました。作況は平年並みとなりました。病害虫においては特に問題にならずカメムシの注意報が 1 回出ました。今年は化学合成農薬使用回数を 8~11 回で済んでおり、他の土づくり、化学肥料低減技術も適合しているので「JA安芸こだわり米」は県が促進しているエコファーマー（持続性の高い農業生産方式）に適合していました。また、来年も実証展示を行いたいと考えています。

黒えだまめオーナー



全然味が違うのでザルいっぱいゆがいた豆がすぐなくなりました。」等、アンケートの中で意見をいただき良かったと思っています。

今年は阿戸に 2 ヶ所、熊野に 1 ヶ所の黒えだまめオーナー販売圃場を設置して 340 区画の販売を計画しましたが台風 12 号の影響で販売区画が減り 331 区画の販売となりました。

オーナー様より「枝豆があんなに大きな株だとは思わなかったのでビックリしました。子供がすごく楽しんでいました。」「自宅から少々距離があるのですがそれでも行く価値が十分あると思っています。また、来年も楽しみにしています。」「とりたての枝豆はとても美味しかったです。子供たちは初めて枝豆の葉っぱを見て収穫し、良い経験になりました。いつも食べている冷凍枝豆と

追分支店総代研修旅行

平成 23 年 10 月 6~7 日追分支店研修旅行に同行させていただきました。今回は「丹波黒大豆」の研修として丹波篠山で特産品の普及販売の役割を担っている「黒豆の館」と「栽培農家」を視察いたしました。丹波篠山では「丹波黒大豆枝豆」を 10 月 5 日より（解禁日）販売を始めます。未熟なものによる品質低下を防ぎ「丹波黒大豆枝豆」のブランドを守っており、黒豆の館では山のように積まれた枝豆が飛ぶように売れておりました。

丹波黒大豆と言えば煮豆として販売されていましたが昭和 63 年兵庫県みどりの祭典により枝豆を販売した所評判となり、まんがの「おしんぼ」に取り上げられたりして現在では全国発送して煮豆用の黒大豆と同じぐらいの販売量になっているそうです。丹波農業改良普及センターの普及員より篠山市での丹波黒大豆の生産（栽培面積 600ha）・販売額（5 億円）及び栽培管理の説明を受けました。

また、生産農家の北川様の作業場・栽培圃場では枝豆の出荷調整をしており道具とか作業手順を見ることが出来ました。北川様からは丹波黒大豆は 300 年以上の歴史があり、ご自身は 50 年丹波黒大豆を作り、丹波黒大豆組合では、もうけたお金で海外旅行へ行こうと頑張りハワイを始め 11 年間続けて海外旅行に行かれたそうです。金をもうけようとして作るのではなく楽しみで作っているとお金がついて来たと話されました。



黒えだまめをNHKテレビで紹介!

JAグループ広島では広報活動の一環として「地産地消」をテーマにNHK地域情報番組と連携した広報を実施しております。

このたび、JA安芸の地産地消農産物「黒えだまめ」をNHK総合テレビ番組の「ひろもり」で紹介いたしました。10月14日午前10時から午後2時までNHK広島放送センタービル・ハートプラザ1階屋外でネット袋に200g詰めた「黒えだまめ」を200袋販売しました。その販売中にNHK総合テレビの生中継があり、生産者の中村圭造様が4分間出演され熊野町に1度食べたらやめられない「黒えだまめ」あることを力説されました。それを見た視聴者が、すぐに買いに来られるというテレビのすごさを感じました。よい宣伝になりました。



9月15日現在の水稻の作況指数は101となっており、広島県では10a当たり予想収量は、530kgと発表され平年並みとされてます。

JA安芸では9月28日から米の集荷検査を行っておりますが、10月25日現在で5,241袋と昨年に比べやや少ない集荷状況になっています。品質は8月中旬以降、前線や台風の影響で日照時間が少ない日が多く最高気温も低い日があったことから、平年よりやや登熟（実の充実）が悪くなっています。また夏以降にカメムシの発生が多く吸汁害の着色による被害粒もみられ、昨年より一等米比率が低くなっています。

米集荷状況!



11月営農メモ

果樹

落葉果樹の植付け

落葉果樹の定植は11月～3月が適期になります。根を乾燥させないようにします（乾く時は灌水します）。植えたところが窪地にならないように盛り土（約20cm）をしてその上に植えます。チツのに入った肥料は根ついてから施します。（苗を購入したが本植えできない場合は、畑に仮植えしておき準備ができてから本植えしても大丈夫です）

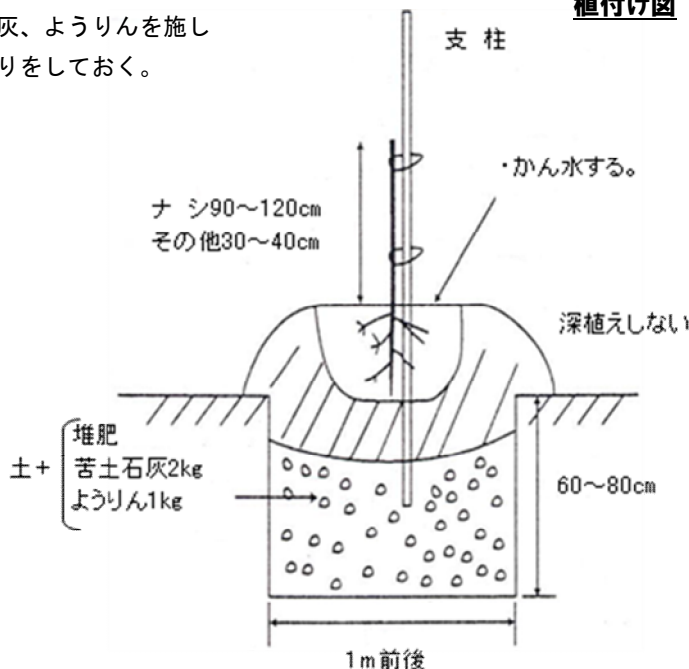
上手に植え付けましょう。

- * 適地・・・日当たりが良く、排水のよいところ
- * 植付け時期・・・11月～3月
- * 植付け方法・・・植付け1ヶ月前までに堆肥
苦土石灰、ようりんを施し
土づくりをしておく。

* 植える手順

- ① 苗木の腐敗根の除去
- ② 苗の根くばり
- ③ 土寄せ
- ④ 支柱立て
- ⑤ 誘引
- ⑥ 先の剪定

植付け図



たまねぎ 11月になるとたまねぎの苗の販売が始まりますが、早生種では上旬、晩生種では下旬が定植適期となります。極端な早植えはとう立ちの原因となりますので控えましょう。

基肥 基肥に燐酸成分が多いと鱗茎の肥大が促進されますので、安芸肥46号など燐酸成分の高い肥料を使用します(130g/m²)。8-8-8成分の肥料(200g/m²)を使用する場合には燐を30g/m²を加えると良いでしょう。

また、基肥一発肥料のベストマッチ(150g/m²)を使用される場合、早生用、晩生用(中生)がありますので注意してください。

粒剤 12月中旬頃まではネキリムシの被害が発生することがありますので定植前に※ダイアジノン粒剤5などを使用すると被害の軽減となります。※農協だより10月号を参照 被害が広がる場合にはガードベイトAを3g/m²株元散布してください。

マルチ ホーリーシート(玉ねぎ用マルチ)を使用すると植付けの目安、雑草の抑制、土壌水分の保湿効果が得られますので使用して見てください。

定植 日中の気温の高い時間帯に定植します。自家育苗している場合茎の太さが4~7mmの苗を植付けするようにし、それより太い物や、細い物は除く様にします。植付け時は深植えとならない様に定植します。また、日中に陽が当たる様な石垣が近くにあると夜間保温され生育が進む事がありますので、その様な場所ではやや小さめの苗を植える様にしましょう。

追肥 極端に色がさめた場合を除き、年内に追肥を行うと生育が進みすぎる事がありますので年が明けてから追肥を開始します。

果樹の一般的な植栽間隔		単位:メートル	
種類	栽培方法	植栽時の間隔	間伐をしてほぼ落ち着いた間隔
ブドウ	短梢せん定H型	4×12	場合によって間伐する
	長梢せん定X型	5×5	10×10
ナシ	棚仕立3本主枝	5×3	5×6
カキ	変則主幹形	5×4	5×3
モモ	2本主枝杯状形	5×3	場合によって間伐する
			5×5
リンゴ	マルバ普通台	5×4	5×8
	低木台栽培	4×2	間伐しない
クリ	変則主幹形	4×4	8×8
ウメ	杯状形	3×4	6×4
スモモ	杯状形	4×4	8×8
イチヂク	杯状形	4×4	場合によって間伐する
キウイフルーツ	棚栽培	5×5	場合によって間伐する
ユズ	変則主幹形	3×3	3×6